7月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■本館展示観覧料が必要です。
■開催日により時間が異なります。ご注意ください。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

4日（日曜日）

時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：上羽陽子　（文化資源研究センター助教）
話題：インドの花嫁衣裳 ――その形態と役割を考える
場所：南アジア展示場

11日（日曜日）

時間：11 時から 12 時
話者：樫永真佐夫　（研究戦略センター准教授）
話題：タイのボクシング
場所：１Ｆエントランスホール

18日（日曜日）

お話
時間：13 時から 14 時
話者：鈴木裕之（国士舘大学教授、国立民族学博物館客員教授）
話題：無文字社会から生まれたアフリカ音楽の魅力
――西アフリカのマンデ音楽を中心に
場所：本館展示場内ナビひろば

公演
時間：14 時 15 分から 16 時
公演名：アフリカン・ポップスの響き――ニャマ・カンテとジェリドン
場所：１Ｆエントランスホール

25日（日曜日）

時間：14 時 30 分から 15 時 30 分
話者：吉本忍（民族文化研究部教授）
話題：伝統の布の“いま”
場所：企画展示場 B

1年間みんぱくに何度でも入館できる「みんぱくフリーパス（3,000円）」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引　など。
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話06−6877−8893／平日9：00 ～ 17：00）

編集後記

山開き・海開きの7月、本誌もページを開いていただくとわかるように、誌面がリニューアルされた。年度途中だが、3月末にリニューアルオープンした言語展示、音楽展示の特集記事を順次掲載するのに合わせてこの時期となった。特集記事はページ数が増え、表紙も、今後はモノにこだわらず特集に応じた柔軟なデザインとなる予定だが、今号の表紙はいかがだろうか。

新コーナーも登場した。研究の生々しい最前線、研究を始める際の目のつけ所、などを紹介する「研究フォーラム」、フィールドを歩きながらより広い視点で考える「散策と思索の径」、研究者や民博を訪れる人びとの思い入れからモノを紹介する「みんぱく 私の逸品」など、民博のさまざまな活動を研究者の眼差（まなざ）しからより広く紹介するコーナー。研究活動がさまざまな博物館活動と不即不離であること、事業仕分けという動きのなかで、人文社会系の基礎的な研究は効率・速効の視点だけでは測りにくいことへの、読者諸賢からのご理解とご支援をお願いしたい。編集委員や制作体制の一部に異動があったことも付記しておく。（久保正敏）

表紙　新しくなった言語展示場に掲げられているパネル「世界の言語」より

次号の予告

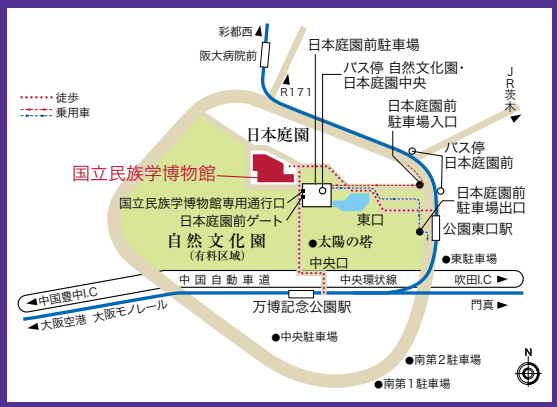
特集
音の力

月刊みんぱく　2010 年 7 月号
第 34 巻第 7 号通巻第 394 号　2010 年 7 月 1 日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒 565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話　06-6876-2151

発行人　西尾哲夫
編集委員　久保正敏（編集長）　朝倉敏夫　樫永真佐夫
庄司博史　中牧弘允　山中由里子
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款
制作・協力　財団法人 千里文化財団
印刷　日本写真印刷株式会社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください）。
●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/